

| 区分別科目  | 栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連  |  | 時間数<br>（法定） | 8（7） |
|--------|--|--|-------------|------|
| 特定行為名  | （A）中心静脈カテーテルの抜去  |  |             |      |
| 担当指導者  | 福井 道彦（医師）自閑 昌彦（医師）川上 敦司（医師）三木 健児（医師）山西 正芳（医師）久保田 良浩（医師）長山 聡（医師）日並 淳介（医師）橋本 恭一（医師）我如古 理規（医師）中村 真司（医師）伊東 真哉（医師）仲井 理（医師）篠塚 淳（医師）三好 梨恵（看護師）  |  |             |      |
| 学ぶべき事項 | （共通）中心静脈カテーテルの基礎知識   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中心静脈カテーテルに関する局所解剖</li> <li>2. 中心静脈カテーテルを要する主要疾患の病態生理</li> <li>3. 中心静脈カテーテルを要する主要疾患のフィジカルアセスメント</li> <li>4. 中心静脈カテーテルの目的</li> <li>5. 中心静脈カテーテルの適応と禁忌</li> <li>6. 中心静脈カテーテルに伴うリスク（有害事象とその対策等）</li> </ol> |             |      |
|        | （A）中心静脈カテーテルの抜去  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中心静脈カテーテルの抜去の適応と禁忌</li> <li>2. 中心静脈カテーテルの抜去に伴うリスク（有害事象とそのリスク）</li> <li>3. 中心静脈カテーテルの抜去の方法と手技</li> </ol>  |             |      |
| 研修概要   | （共通）中心静脈カテーテルの基礎知識   | 中心静脈カテーテルの必要性やその特徴を理解し、安全に中心静脈カテーテルの抜去を実践できる看護師を養成する。  |             |      |
|        | （A）中心静脈カテーテルの抜去  | 医師の指示の下、手順書により、身体所見（発熱の有無、食事摂取量等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、中心静脈内に挿入されているカテーテルを引き抜き、止血するとともに、全長が抜去されたことを確認する。抜去部は、縫合、結紮閉鎖又は閉塞性ドレッシング剤の貼付を行う。縫合糸で固定されている場合は抜糸を行う。   |             |      |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、中心静脈カテーテルの抜去ができるようになる。</li> <li>2. 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。</li> <li>3. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。</li> <li>4. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。</li> </ol> |  |             |      |
| 評価方法   | 講義：eラーニングの受講及び講義確認テスト  |  |             |      |
|        | 実習：評価表（Mini-CEX）を用いた観察評価   |  |             |      |
|        | 試験：eラーニング上で筆記試験を実施   |  |             |      |
| 研修内訳   | 講義（7時間）  | 視聴時間 45分 + 講義確認テスト 15分   |             |      |
|        | 実習   | 実習は指導者の下、湘南鎌倉総合病院で行い、最低5症例経験する。<br>※各行為の実習観察評価0.25時間は5症例目の実習時間に含める。  |             |      |
|        | 試験（1時間）  | 科目修了試験（筆記試験）1時間<br>（共通）中心静脈カテーテルの基礎知識 0.5時間<br>（A）中心静脈カテーテルの抜去 0.5時間   |             |      |

## 授業計画

| 科目名   | 回   | 研修方法<br>/評価 | 授業<br>形態 | 学ばべき事項  | 担当指導者  |                        |                |
|---|-----|-------------|----------|---|--|------------------------|----------------|
| 栄養に係る<br>カテーテル<br>管理（中<br>心静脈カ<br>テーテル管<br>理）関連 | 第1回 | 講義          | 放送       | （共通）中心静脈カテーテルの基礎知識                                | 中心静脈カテーテルに関する局所解剖、中心静脈カテーテルを要する主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント、目的（1） | 福井 道彦<br>自閑 昌彦         |                |
|   | 第2回 |             |          |   | 中心静脈カテーテルに関する局所解剖、中心静脈カテーテルを要する主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント、目的（2） |                        | 川上 敦司<br>三木 健児 |
|   | 第3回 |             |          |   | 中心静脈カテーテルの適応と禁忌、リスク（有害事象とその対策等）                            |                        |                |
|   | 第4回 |             |          | （A）中心静脈カテーテルの抜去                                   | 中心静脈カテーテルの抜去の適応と禁忌   | 長山 聡<br>日並 淳介<br>橋本 恭一 |                |
|   | 第5回 |             |          |   | 中心静脈カテーテルの抜去に伴うリスク（有害事象とそのリスク）                             |                        |                |
|   | 第6回 |             |          |   | 中心静脈カテーテルの抜去の方法と手技(1)                                      |                        |                |
|   | 第7回 |             |          |   | 中心静脈カテーテルの抜去の方法と手技(2)                                      |                        |                |
|   |     | 実習          | 面接       | 中心静脈カテーテルの抜去（見学）<br>※患者に実技を行う前にモデル人形等を利用し、技術訓練を行う | 我如古 理規<br>中村 真司<br>伊東 真哉<br>仲井 理<br>篠塚 淳<br>三好 梨恵          |                        |                |
|   |     |             |          | 中心静脈カテーテルの抜去の実施                                   |  |                        |                |
|   | 第8回 |             |          | 試験  |  | 試験                     | 科目修了試験（筆記試験）   |

| 参考図書・資料等 | 全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード   |
|----------|--|
| 備考       | <ul style="list-style-type: none"> <li>* e ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで自宅等で視聴して差し支えない。</li> <li>* 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。</li> <li>* 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う（祝祭日を除く）。</li> <li>* 1 回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学習進度に応じて履修開始後、連絡される。</li> <li>* 各行為の実習観察評価 0.25 時間は 5 症例目の実習時間に含める。</li> <li>* 科目修了試験（筆記試験）は、各時間終了後に行われる確認テスト及び実習で学習した範囲より出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。</li> <li>* 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時的講義を行う。講義の場所は、講義室とする。</li> </ul> |